

第 49 回研究会の概要

教育・研修委員会

I. はじめに

第 49 回研究会は 2016 年 8 月 25 日（木）と 26 日（金）、熊本県玉名市の九州看護福祉大学に会場をお借りして開催した。図書館員の現状と課題を考えるという企画意図のもと、テーマを「看護教育と図書館－図書館員の役割」とし、講演・ワークショップ・事例発表を行なった。参加者は講師 5 名、役員・委員 6 名を含め総数 31 名で、内訳は会員 27 名、非会員 4 名であった。本稿は概要のみを紹介し、詳細は各講師の執筆ページをご参照いただきたい。

研究会は小講義室およびパソコンルームで開催した。向かいの中講義室 1 では医学中央雑誌刊行会、サンメディア、医学書院、ブレインテック、EBSCO の 5 社が 2 日間、企業展示を行なった。

はじめに井上事業局担当理事より開会挨拶があり、続いて会場校の九州看護福祉大学の山本恵子図書館長からご挨拶をいただいた。

II. 講演

「19 世紀に著された『看護覚え書』は 21 世紀の学生にどう響くか－“夢の実現”を支える“健康な生活”を全ての若人に－」

宮崎県立看護大学の小河一敏准教授による講演は、1 年次生が普遍科目「文化と看護」領域の「生活科学演習」で、ナイチンゲールの『看護覚え書』で挙げられている「換気と保温」「住居の健康」等の項目を学び、実際の生活を見直していく過程を話された。会場校の教員数名も、聞きに来られていた。

III. 「看護図書館と司書の役割について」ワークショップ①

研究会テーマである「看護教育と図書館－図書館員の役割」について考える機会となることを目的に企画し、聖路加国際大学学術情報センターの松本直子氏にコーディネーターをお願いした。

はじめに、松本氏からワークショップおよびグループワークの進め方について説明があり、次に、下記 1～3 の講義では、大学教員から図書館員に期待する役割や、日本看護図書館協会が直前に行なった調査の結果を聞いた。

参加者にはあらかじめ付箋紙（ポストイット）を配布し、講義ごとに感想や質問を記入、提出してもらい、講師から回答していただいて参加者全員で共有する時間を設けた。

1. 「看護教育・研究と大学・大学院図書館の役割：司書に期待すること」

国際医療福祉大学福岡看護学部の原田広枝教授より、看護教育に携わっている教員の立場から、学生は学習や研究にあたって、どのようなことに興味を持っているのか、つまりいてしまったのはどのようなことか、といったことや図書館員に期待する役割についてお話をいただいた。

2. 「看護系大学図書館の課題：司書に期待すること」

千葉科学大学（前沖縄看護大学学長）の前田和子教授より、新設大学図書館の設立委員をはじめ学長まで務めてこられた経験から、今後の課題や図書館員に期待する役割を話された。

3. 「日本看護図書館協会加盟館の学びの調査から」

愛知医科大学医学情報センター（図書館）の小林晴子氏から、日本看護図書館協会が研究会前に行なった「日本看護図書館協会会員における学びの調査」に基づき、会員が不足していると感じている業務のスキル・知識等に関する調査結果が発表された。

最後に原田氏に、参加者からのポストイットでの質問にお答えいただいた。

IV. 懇親会

1日目終了後バスで移動し、玉名市内の尚玄山荘で行なった。会場校の九州看護福祉大学の山崎貴士図書課長にご挨拶と乾杯のご発声をいただいた。26名が参加し、日本庭園を眺めながらの食事は、自己紹介をするなど終始和やかなものとなった（写真）。宿泊者15名は温泉や日本庭園の散策等も楽しめた。



V. プロダクトレビュー①

コンピュータルームにて、NPO 医学中央雑誌刊行会と株式会社サンメディアが各社のシステムやサービスについて紹介した。

VI. 「看護図書館と司書の役割について」ワークショップ②

コンピュータルームから小講義室に移動し、はじめに、前日のワークショップ①の講師、前田氏と小林氏に、参加者からの質問にお答えいただいた。

「日本医学図書館協会認定資格制度：司書の専門性と役割」

日本医学図書館協会認定資格運営委員でもある、愛知医科大学医学情報センター（図書館）の小林晴子氏に依頼し、専門的な知識・スキルの向上が図れる資格の制度について紹介してもらった。

後半はグループワークと発表を行なった。

グループは所属館種を考慮して決められ1グループ6～8人でA～Cの3グループとした。コーディネーターの松本氏からのアドバイスを受けながら、「1週間に1時間程度、利用者サービスを自由に行えらるとしたら、どのようなことを行ないたいか」を考え、意見交換し、模造紙にまとめた（写真）。

その後、模造紙は室内の壁に貼り、参加者には各グループの内容を見ての感想や質問をポストイットに記入、該当箇所に貼ってもらった（写真）。

最後にグループごとに模造紙の前での発表と質疑応答を行ない、終了した。



Ⅶ. 事例発表

「小規模図書館における図書委員との協働」

教育・研修委員会で事例発表を募集し、ハートランドしぎさん看護専門学校の山口留美氏が、より利用される図書室を目指して行っている活動を発表された。

Ⅷ. プロダクトレビュー②

再度コンピュータールームに移動し、株式会社医学書院、株式会社ブレインテック、EBSCO Information Services Japan 株式会社が各社のシステムやサービスについて紹介した。

Ⅸ. 閉会挨拶

井上事業局担当理事、小川教育・研修委員長より挨拶し、終了した。

Ⅹ. 文献検索困りごと相談

図書館業務や文献検索の困りごととの相談を想定したが、希望はなく中止し、企業展示や図書館見学の時間に変更した。

Ⅺ. おわりに

参加者中 16 名よりアンケートの提出があった。グループワーク以外のプログラム毎に「今後役立つ知識だった」「業務の参考になった」「十分理解できなかった」「関心のないテーマだった」の 4 項目の該当をたずねたところ、ほとんどが「今後役立つ知識だった」「業務の参考になった」であった。グループワークの感想欄では「楽しかった」「いろいろな方の意見を聞くことができた」といった記述が見られ、全体の印象についても「参加しやすい雰囲気だった」「有意義な話ばかりで参加できて良かった」といった感想だった。ご参加いただいた皆様、有り難うございました。

研究会開催にあたり、非常に役立つお話をしていただきました講師の方々、お菓子やお茶のご提供など細やかなお心遣いをいただいた会場校の九州看護福祉大学附属図書館の皆様、企画・準備に多くのご助力をいただいた理事・監事の皆様に、厚くお礼申し上げます。

プログラム（講師敬称略）

2016年8月25日（木）

受付 12:30-13:00 企業展示（中講義室1）12:30-17:15

I. 開会挨拶・オリエンテーション 13:00-13:10（以下 小講義室）

II. 講演 13:15-14:25

「19世紀に著された『看護覚え書』は21世紀の学生にどう響くかー“夢の実現”を支える
“健康な生活”を全ての若人にー」

宮崎県立看護大学 准教授 小河一敏

III. 「看護図書館と司書の役割について」ワークショップ①

コーディネーター：聖路加国際大学学術情報センター 松本直子

14:25-14:35 参加者グループワーク1（講師紹介と進行説明）

14:40-15:30 「看護教育・研究と大学・大学院図書館の役割：司書に期待すること」

国際医療福祉大学福岡看護学部 教授 原田広枝

15:30-16:20 「看護系大学図書館の課題：司書に期待すること」

千葉科学大学 看護学部看護学科長 前田和子

16:20-16:35 「日本看護図書館協会加盟館の学びの調査から」

愛知医科大学医学情報センター（図書館） 小林晴子

16:35-16:50 参加者グループワーク2（講義への質問と感想記述）

17:00-17:15 質問・感想に対応する補足説明

国際医療福祉大学福岡看護学部 教授 原田広枝

IV. 懇親会 17:40-20:00

会場：尚玄山荘（熊本県玉名市河崎1番地1）

8月26日（金）

企業展示（中講義室1）9:30-15:50

V. プロダクトレビュー①（コンピュータールーム）9:30-9:50

NPO 医学中央雑誌刊行会, (株)サンメディア

VI. 「看護図書館と司書の役割について」ワークショップ②（小講義室）

10:00-10:15 質問・感想に対応する補足説明

千葉科学大学 看護学部看護学科長 前田和子

10:15-10:35 「日本医学図書館協会認定資格制度：司書の専門性と役割」

愛知医科大学医学情報センター（図書館） 小林晴子

10:40-12:00 参加者グループワーク3（グループでの意見交換とまとめ）

13:00-13:45 グループ発表

VII. 事例発表（小講義室）14:00-14:40

「小規模図書館における図書委員との協働」

ハートランドしぎさん看護専門学校 山口留美

VIII. プロダクトレビュー②（コンピュータールーム）14:50-15:20

(株)医学書院, (株)ブレインテック, EBSCO Information Services Japan (株)

IX. 閉会挨拶 15:20

X. 文献検索困りごと相談（中止）